



2020年8月 南総文化ホール前

2020年10月12日 予算要望書提出

ごあいさつ

秋の深まりを感じる季節になりました。昨年9月の台風から早くも一年が過ぎましたが、いまだ完全な復旧に至っていません。生活や環境の変化を余儀なくされ、さらに新型コロナウイルスの感染症により、仕事や日常生活への影響はいまだに続いています。

国は地方の窮状に対して2度にわたる地方創生臨時交付金を予算化し、館山市にはおよそ8億円以上の交付金もたらされました。新しい生活様式や、事業の維持継続に対し十分に活かされていますが、これら随時検証することは議会の役割です。また、市民の立場から行政に対し様々な要望や、自治体の発展という究極の目的を果たすための政策提案も重要な仕事です。

今後皆様のご意見に耳を傾けながら、私のモットーである『元氣・活力・輝く館山』を目指してまいります。

なお、前回の活動報告(16号)がコロナの影響のため配布できなかった地域に、今号と共に配布することをご了承いただきたいと思います。

◆令和2年第3回定例会(9/3) 地方創生臨時交付金の有効活用について

問 地域未来構想20オープンラボが内閣府により設けられたが、館山市では登録や活用を行ったのか。また、交付金の使途状況を伺いたい。

答 内閣府から「地域未来構想20オープンラボ」に関する案内があったが、登録や活用は検討段階だ。市では現在、企業との連携による地方創生の取り組みを推進しているが、先行事例や関係省庁の支援策を参考に引き続き検討する。また、国による2回の補正予算で館山市へ配分された地方創生交付金はおよそ8億3千万円。すでに5億7千万円は予算編成を行い、残る2億6千万円は9月議会での補正予算の提出を目指し検討している。

解説 市は国の示す「地域未来構想20」の政策分野に沿った事業を7分野で実施していることですが、新型コロナウイルス感染症による様々な影響の中、新たな生活様式や地域活性化のための有効活用を資することが重要です。今後その効果について注視していきます。



◆請願第5号 山本地区の洪水対策の請願に対する賛成討論

請願を出された当該地域は、過去に幾度となく大雨増水による被害を受けております。特に館山市の農業の代表的な産品である梅の栽培や観光いちご狩りを営むなど、主要な農業地帯であります。また、この地域には農業用ため池の田代堰、通称山本堰もあり、春から秋までの稲作時期は満水状態になります。市では、災害対策として決壊に備えたハザードマップの作成中ですが、このことからしても、当該地域の洪水対策が求められます。近年新興住宅も多く、農業被害の軽減と安全な生活環境の整備の両面より、一日も早い洪水対策の必要を感じます。よって、当委員会ではこの請願を採択すべきと思ひ賛成討論とします。

洪水対策で議員団と現地視察(上)
昨年の台風豪雨で冠水の山本地区(左)

このたびでお (角田秀穂)

次期衆院選の比例南関東ブロック予定候補に公認。昨年の台風15号では館山市の被災地を回り、現場第一主義に徹している。

次期衆院選 第3次公認

【略歴】
1961年3月東京都葛飾区生まれ。創価大学法学部卒業。上下水道の専門紙・水道産業新聞社編集部次長を経て、1999年から船橋市議会議員を4期、2014年12月から2017年10月まで衆議院議員を1期務める。社会保険労務士、公明党千葉県本部副代表

◎ 龍崎 滋 プロフィール
1954年館山市広瀬生まれ、安房高、専修大学卒/母、妻、長男、長女5人家族/農産物直売所「なのはな村」代表、農産物直売所連絡協議会会長、食のまちづくり協議会副会長、館山市民まつり・軽トラック市実行委員長、たてやま緑の仲間たち(農業体験・食育ボランティア)代表。
・議会役職/建設経済委員、消防委員会委員、総合計画審議会委員、農政審議会委員/党役職/内房総支部長

災害派遣医療チーム事務局にて(立川市)